



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成29年 2月28日

校長 福田 俊彦

6年生への思いを新年度につなげて

校長 福田 俊彦

花屋の店先に桃の花が見られる頃となりました。弥生の月を迎え、子供たちを迎える平成28年度も残り少なくなりました。「春はもうそこまで・・・」という思いが。今年度も、保護者の皆様、地域の皆様には、「みんなの子供をみんなではぐくむ」のもと、ご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

さて、3月24日には、本校の学校生活を創ってきた60人の6年生が卒業を迎えます。日々の生活の中で、全校児童をリードしていく運動会、展覧会などの学校行事で、お世話になった方々へ「ありがとう」を届ける場面で、下学年があこがれる姿を届けてきた6年生です。卒業を前に6年生と校長室で会食をしました。話題は、私の幼小の頃の話、私の夢、友達のことなどです。

そして、一人一人の6年生に聞きます。「小学校生活の思い出は何ですか。」多くの6年生が、多様な場面を通して、今の仲間と協力できたこと、仲良く過ごせたこと、みんなでやり遂げたという達成感を味わえたことを話しました。その中に、他学年の喜ぶ顔を見ることができた嬉しさについて話す6年生がいました。下学年の時、委員会活動で何をするのか分からなかったが、集会委員会で集会の計画を立て、活動に結び付け、みんなの喜ぶ表情がとても印象に残ったと言うのです。高学年になり、それまでの高学年の姿にあこがれていたことが自分たちができるようになった喜びを話す子供もいました。運動会での頑張りです。仲間や家族の支えです。私からは、その場面で、その仲間と、この南町小学校で、同じ時間を過ごし、同じ目的に向かって進めることは二度とないことを伝えました。

更に問いかけます。「夢は何ですか。」子供たちは、中学校での頑張り、将来の職業について話しました。ある職業について子供が言います。自分の体験をもとに、人から話しかけられ、心が和んできたことを。その方との関わりを通してその職業の素晴らしさに触れたのでしょうか。コミュニケーションが大事にできるその職業に就きたいと。移動教室での出会いが、自分の夢をより明確にした話もありました。水族館で働くトレーナーとイルカやシャチの関わりで感動したようです。人の役に立ちたいという思いから、目指す職業について話す子供たちの表情はとても真剣でした。警察官、保育士、介護士、医者、建築家等。単に仕事の内容を話すのではなく、そこに関わっている人の役に立ちたいと語るのです。聞いていて心が温かくなりました。私からは、人は人との関わりの中で、互いの支えを感じることができ、そのことが社会を創っていくもとになることを伝えました。

60人の卒業生は、この南町小学校に活動を通して自分たちの文化を築きました。その文化は自分たちにとっても他の人にとってもよりよいものです。そのことを私たち大人も、下学年の子供たちも分かっています。そして、その文化を更によりよくしていかなければならないということも分かっています。4月からは新たな最高学年が、あこがれの6年生として南町小学校の文化を引き継ぎ、高めていきます。皆様への感謝とともに、来年度の6年生をはじめとする南町小学校の子供をみんなの子供として見守っていただけますようお願いいたします。